

## 令和5年度 学校経営計画

四條畷市立岡部小学校

校長 木村 実

### Ⅰ 学校経営方針

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来や新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な予測困難な時代に直面しているなか、一人ひとりの児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる必要があるとされている。

また、学習指導要領では、3つの柱からなる育成すべき資質・能力、何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）、理解していること、できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力）、どのように社会と関わり、より良い人生を送るか（学びに向かう力、人間性等の涵養）を総合的に育むため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要である。

併せて、学校教育目標の実現に必要な教育内容を教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質を向上させるべく、カリキュラム・マネジメントの充実も重要となる。

更には『令和の日本型学校教育』にも示されている、GIGA スクール構想に基づく個別最適化された学びと協働的な学びを一体的に充実することも求められる。

この様な状況下で示された四條畷市教育振興基本計画の基本理念である『みんなの学びが叶うまち ～生涯 学び 夢 挑戦～』を受け、本校において学校教育目標を「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成とし、学校経営の核と位置づけたい。この目標を達成するため、計画的、継続的に見直しを図りながら、学校を安心安全の場とし、児童一人ひとりにとって温かい居場所がある学校を教職員と共に創造していきたい。その根幹をなす『授業づくり』と『集団づくり』を2本柱とし、この両輪を有機的、効率的に機能させ、教職員のベクトルを揃え、学校を運営していく。

また、学校教育目標の実現には、教科横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの視点も充実させ、知・徳・体バランスのとれた「生きる力」を育む教育活動を展開し、未来にはばたく子ども達の育成に努めたい。

具体的に、学校経営の視点として、以下5点を示す。

#### (1) 学力向上を図る教育の推進

学習指導要領に示された、従来の「何を学ぶか」という学習内容に見直しと併せて、「どのようにまなぶか」という学習の過程や、その結果「何ができるようになるか」という事を据えた学びの質の向上をめざし、授業改善を行う。その中心的な取組みとして、校内研修では算数科の研究をさらに深めていく。その際、本校児童の実態を的確にとらえ、課題解決に向けた取組み内容やより深い深い学びに繋がる方法を全教職員で共有し、成果を求めることで子どもたち一人ひとりの「生きる力」「生き抜く力」の育成を図る。

#### (2) 人権教育、心の教育の充実

互いを認め合い、様々な人権問題を解決し、人権尊重の社会づくりを進めるために、差別を見抜く力、差別に対して行動しようとする力を、全教育活動を通して身につけさせたい。

また、「生きる力」の基礎ともいえるべき声明を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心など、心の教育の充実を図り、豊かな人間性の育成をめざす。

#### (3) 安心安全で、魅力ある学校づくり

すべての子どもにとって、健康かつ、安心安全で魅力ある学校づくりをめざし、健やかな体の育成（体力向上の推進）や安全教育の計画的な遂行に努め、教育環境の充実を図る。

また、「いじめ防止対策推進法」「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」「子どもの貧困対策に関かんする法律」などを受け、子どもたちが夢と希望を持ち、安心して生活することができる共生社会を実現すべく、教育活動を推進していく。

#### (4) 家庭、地域との連携

「生きる力」の育成に向けては、子どもたちの学習意欲を高め、学習習慣が確立するよう家庭との連携を図ることが

(様式1)

大切となる。学びに向かう生活基盤の確立は子どもたちにとって大きな力となる。生活背景に配慮しながら自主学習の積極的な推進を図り、家庭からの協力を得て、ともに子どもたちの成長を見守り、支える視点で連携を図っていく。

また、めざす学校像の共有やその実現に向け、取組みや課題を保護者及び地域に積極的に発信し、Stakeholderの協力を得ながら取組みの充実、推進を図っていく。

#### (5) 組織的な学校運営と人材の育成

社会のあり方が多様化する中、教職員が組織的に教育活動を進めることは必要不可欠であり、教職員の連携を大切にし、分掌や学年などを基盤にベクトルを同じくし、全校体制での教育活動を推進する。

また、教職員一人ひとりの個性を生かしながら、専門性や資質、能力の向上、サービスの厳正に努め、互いを尊重し学び合う姿勢を持ち続けることを大切にする。

これらを実現するために、FOT(For Okabe Time)を創設し、有機的、機能的な学校運営を行う。

## 2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	○学校教育目標「健康で よく考え 仲良く がんばりぬく子ども」の育成 ・子どもが生き生きと活動する安心安全な学校 ・保護者や地域とともに子どもを育む学校 ・教職員が互いに切磋琢磨し高め合う学校
★めざす子ども像	○何事にも自分の考えを持ち、主体的・意欲的に取り組み、思いを表現できる子 ○「お・か・べ」・・・「お」もいやる 「か」んしゃする 「べ」ストをつくす ・相手の気持ちを考える優しく豊かな心の子 ・自分の弱さに負けない強くたくましい心の子
★めざす教師像	○子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ○主体的に問題を捉え、広い視野で解決できる教師 ○人間愛にあふれ、明るく前向きに職務を遂行できる教師

(様式1)

### 3 学校の現状(よさと課題)

#### (1) 子どもたちの実態

本校の子ども達の強みは、元気で優しく素直で、任せられたことは責任を持ってやり切る力があることである。高学年になるとリーダーシップを発揮し、自主活動を積極的に展開していく。そんな強みを持つ児童に対し、さらに求めたいのは、他者の思いを慮ったり、自分の思いを様々な表現で表したりすることである。

※教育振興基本計画の測定指標に係る本校の児童のようす

項目	肯定的回答(%)	
	令和4年度	令和3年度
自分には良いところがあると思う児童の割合	80.0% (↓)	89.7%
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	92.9% (↓)	95.6%
将来の夢や目標を持っている児童の割合	77.2% (↓)	79.4%

#### (2) 子どもたちを取り巻く環境

##### ①教育環境

広い運動場、自然に囲まれた高環境に加え、中規模改修以降、明るくきれいな校舎内や教室、開放的な廊下、各教室には空調設備や大型テレビが配置され、個人用タブレットPCが市より貸与されている。ソフト面においても、教職員の指導のもと、学習規律を大切に、落ち着いた雰囲気での学習活動に取り組むことができている。

##### ②地域

地域は学校に対して協力を惜しまない恵まれた環境である。関係自治会の方々とは、校だよりを持参し、時々において情報交換を行うなか、連携を図らせてもらっている。

##### ③組織(教職員、PTA、保護者)

- 教職員 学校教育目標の実現のため、ベクトルを揃え日々教育活動に熱意をもって取り組んでいる。
- PTA、保護者 令和5年3月に大きな規則改正を行ったため、任意団体を意識した活動を今後模索していく。

### 4 今年度の達成目標、具体的な方策

#### 目標設定区分1 『学校経営』

##### A 今年度の成果目標

##### 達成基準(各種調査、アンケート等)

学校の教育力の充実

市授業改善に関するアンケート  
学校教育自己診断アンケート

##### B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
全学年での研究授業の実施	100% ※R4 100%	学力向上担当教員を中心に、「四條畷市授業スタンダード」を踏まえた授業改善に努め、校内研修のテーマである「自分の思いを言葉で伝えあえる子ども達の育成」をめざす。
授業はわかりやすく楽しい(児)	(児)92% ※R4 91%	

(様式1)

学校に行くのが楽しい (保)(児)	(児)85% ※R4 83% (保)92% ※R4 91%	・困っている児童に寄り添い、悩み事を共に考え、解決できる、児童との信頼関係の構築 ・トラブルに対し、自己の行動を振り返り、今後どうすれば回避できるかを考えることができるよう、児童自らの成長を促す生徒指導を行う。
担任等はお子さんの気持ちを理解し、家庭と適切に連携を図っている(保)	(保)95% ※R4 92%	・児童の成長を評価し、自己肯定感の向上につなげていく
自分を大切にすることや相手への思いやり、感謝について道徳などで学んでいる(児)(保)	(児)98% (保)96%	・人権教育担当及び道徳教育推進教師を中心に体系を整え、授業実践を交流し、授業力を高めていく。

### 目標設定区分2『学校組織の運営』

<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準(各種調査、アンケート等)</b>
学校組織力の向上と運営体制の見直し		学校教育自己診断アンケート
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
各分掌や学年間の連携は円滑かつ有機的に機能している	(教)100% ※R4 94%	・学校経営方針や教育目標などの周知を行い、学校運営の方向性の共有化を図る。 ・FOTを有機的、効率的に機能させ、組織体制の見直しを行う。
様々な問題事案を未然に防止するため、生活指導部が中心となって取り組んでいる	(教)100% ※R4 100%	・自尊感情を育てる教育などの充実を図る。 ・いじめ、虐待、不登校などの生活指導関係および感染症やアレルギー対応、自然災害、交通安全などの保健安全指導関係の対応体制・方法の共有と見直しを行う。 ・福祉部局との連携の推進を視野に、適切な時期にケース会議を行う

### 目標設定区分3『人の管理・育成』

<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準(各種調査、アンケート等)</b>
教職員の資質の向上		学校教育自己診断アンケート
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
初任者など経験の浅い教職員を学校全体で育成している	(教)90% ※R4 89%	・日常的なOJTの推進 ・教職経験年数に応じた各キャリアステージで求められる教員像を意識し、自身がめざすべき姿(教員力)の習得に努める。 ・教職経験年数の少ない教員の育成については、学校全体でチームとして組織的に行う。
サービス、不祥事の防止について、職員会議で周知徹底を図る	(教)100% ※R4 100%	・教職員の指導監督を適切に行い、事例を示しながら服務規律の確保を図る。また、不祥事の発生を予防し、未然防止を図るため、関係資料を活用し校内研修を実施する。

(様式1)

目標設定区分4 『地域連携と渉外』		
A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援		学校運営協議会で成果や課題に対する助言の共有内容 学校教育自己診断アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
ホームページ更新	月2回以上 ※R4 月2回以上	・学校だよりやホームページを活用し、学校の様子や取り組みなど広く地域に発信していく。
学校運営協議会の活用	年5回以上の会議を実施	・学校運営協議会の有効的な活用を模索し、今後の学校運営に係る組織の充実を検討する。
宿題を含む家庭学習では、15分×学年の時間を取組んでいる	(児)60% ※R4 57%	・自主学習の好事例を掲示し、児童の意欲を喚起する。 ・家庭教育を支援するため、家庭学習の手引きを活用し、あらゆる機会に保護者あて協力を求めていく